

YAMAHA NEWS NO.87

ヤマハニュース '70 **9** SEP.



〈スポーツはヤマハ〉

モトクロスにロードに
スポーツファン激増

〈新しい二輪車時代を築くヤマハ〉
だれもが楽しめるトレールタイプの

「ヤマハミニ」一新発売!!

ヤマハトレールランドで走りましょう

大自然そのままの雄大なコースを思いっきり走れる「ヤマハトレールランド」は、まさに若者たちの別天地。ソロで、グループで、「ヤマハトレールランド」で走りましょう。

新しいスポーツレジャーの“場”「ヤマハトレールランド」は、お店とお客さまを固く結びつけ、同時に、新しい需要を喚起し、もっか各地に次々と誕生しています。



—新しい二輪車時代を築くヤマハ—

初の500cc級

モトクロスに

RT1勝っ!!

第7回モトクロス日本グランプリ大会

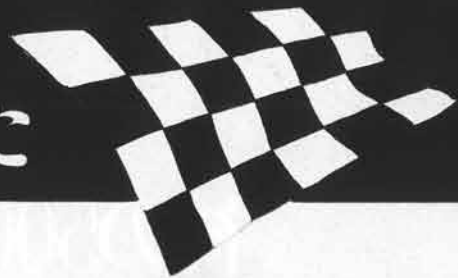
恒例のモトクロス日本グランプリ大会（主催MFJ）は七月二十五、二十六の両日にわたり、群馬県浅間山麓黒豆河原に延べ五百六十二台の出走車をあつめて、三部門（ノービス、ジュニア、セニア）、クラス別（五〇cc、九〇cc、一二五cc、二五〇cc、五〇〇cc）十二レースが行なわれた。呼びものはセニア部門の五〇〇ccレース。もちろん日本では今大会が初めてのものだけに、会場につめかけた五万の大観衆はかたずをのんでレースの成りゆきを見守ったが、ヤマハトレール360RT1は、スタートから豪快に飛びだし、日本のレース史上に長く残されるこの記念のレースで一、二位を独占した。

強大なパワーをフルに発揮して、ダイナミックなレース展開で優勝をさらったヤマハトレール360RT1の加藤清丸選手（関東・愛和レーシング）



スポーツはヤマハ

のうちなんと264台がヤマハでした



ウワッ、とあつまった人、人、人。モトクロスは、いまスポーツレジャーの頂点にある。新しい需要の動向がここにみられる。

モトクロス日本グランプリ大会も、回を重ねて、ことしが第七回。開催直前に会場の変更を余儀なくされるといふアクシデントがあったものの、出走台数は五百台を大きくオーバーし、過去六回のグランプリを含めて最高の五百六十二台を記録した。

これは、日本でもモトクロスがようやく定着し、特定のユーザーの手からはなれて、一般の人がたれでも気軽に参加できるスポーツレジャーとして育っていることを証明するものといつてよい。

事実、今大会での五百六十二台の出走車のうち、半数を越える三百六十八台がノービス（新人）部門で占められている。とくに、九〇ccクラス、一二五ccクラスでは、予選レースを三組に分けて決勝進出をきめるほど苛酷な条件となった。

しかし、グランプリに挑戦した若者たちの多くは、勝敗は時の運として、まずひたすらに走ることには大きな満足感を味わっている様子で、ホコリまみれの顔に汗をびっしょりかきながら、互いに健闘をたたえあっていた。

次頁へつづく



いきの選手
ラを向ける



浅間山の噴煙はかすかだったが、コース上の砂塵は猛烈をきわめ、選手、観客を悩ませた

人気ぼうぐん 出場マシン562台

スポーツはヤマハ



もっとも多くの出走車を数えたのはノービス部門の90ccクラスで135台。ついで125ccクラスの112台、250ccクラスの71台。



ヤマハ、ヤマハの先陣争い。コース一周は1.5km。一斉スタートの爆音が浅間高原のさわやかな大気をふるわせた。



観客の動員は5万人におよび、ひや、自分の仲間の疾走ぶりにカメラ姿が目についた。

手が続々と

勝ち名乗り

スポーツはヤマハ



一周 1.5kmの火山灰の台地を快調に飛ばすのは平野芳男選手(中部・天竜リバーサイド)。AT1、DT1でノービス125、同250の両クラスを制覇。最優秀選手となる。今大会では新人選手の活躍が非常に目立った。

出場選手は、ライダー一人に少なくとも二人のメカニック、ヘルパーがついていたが、そのほかレース中にはコーナーで順位や周回数を知らせたり、声援をかけたりの仲間も多く、おそらくライダー一人につき五、六人の仲間が加わっているとみられる。

またノービス部門のマシンは、その殆んどが新車をおろしたばかりのもので、それぞれキットパーツをフル装備し、なかなかみことな改造ぶりをみせていた。これには多くの販売店さんの協力もあることであろうが、これからはますますスポーツレジャーが盛んなることを見込めば、これはまた当然のことでもあろう。

なお、出走車五百六十二台のうち、実に二百六十四台がヤマハで、選びぬかれたヤマハ車のライダーは、各部門、各クラスではなほなしい活躍をみせ、スポーツはヤマハの実績をいかなく発揮した。



トレールシリーズの普及で新人選

晴れの表彰台に立てば、ムービーカメラが喜びの顔を走り、モトクロスがテレビで放映されるのは、いまではもう珍しくない。



ゴールノセツケン5の竹本実選手は、個人資格ながら愛車A.T.T.の高性能をフルにひきたし、なみいる強者をしりぞけて、ジョニア125に感激の優勝ノ

今大会では遠く沖縄からも参加があつた。沖繩ヤマハのお客さま三人で、それぞれDTTを持参してきた。



大物新人2ついにあらわれる。日本では初めての500ccクラスで優勝したマシンと同一型のヤマハトレール360DTTモトクロス



全日本モーターサイクルクラブ連盟主催の「ロードレース日本選手権第二戦・東日本大会」が、7月26日、新設の筑波サーキットで開かれました。

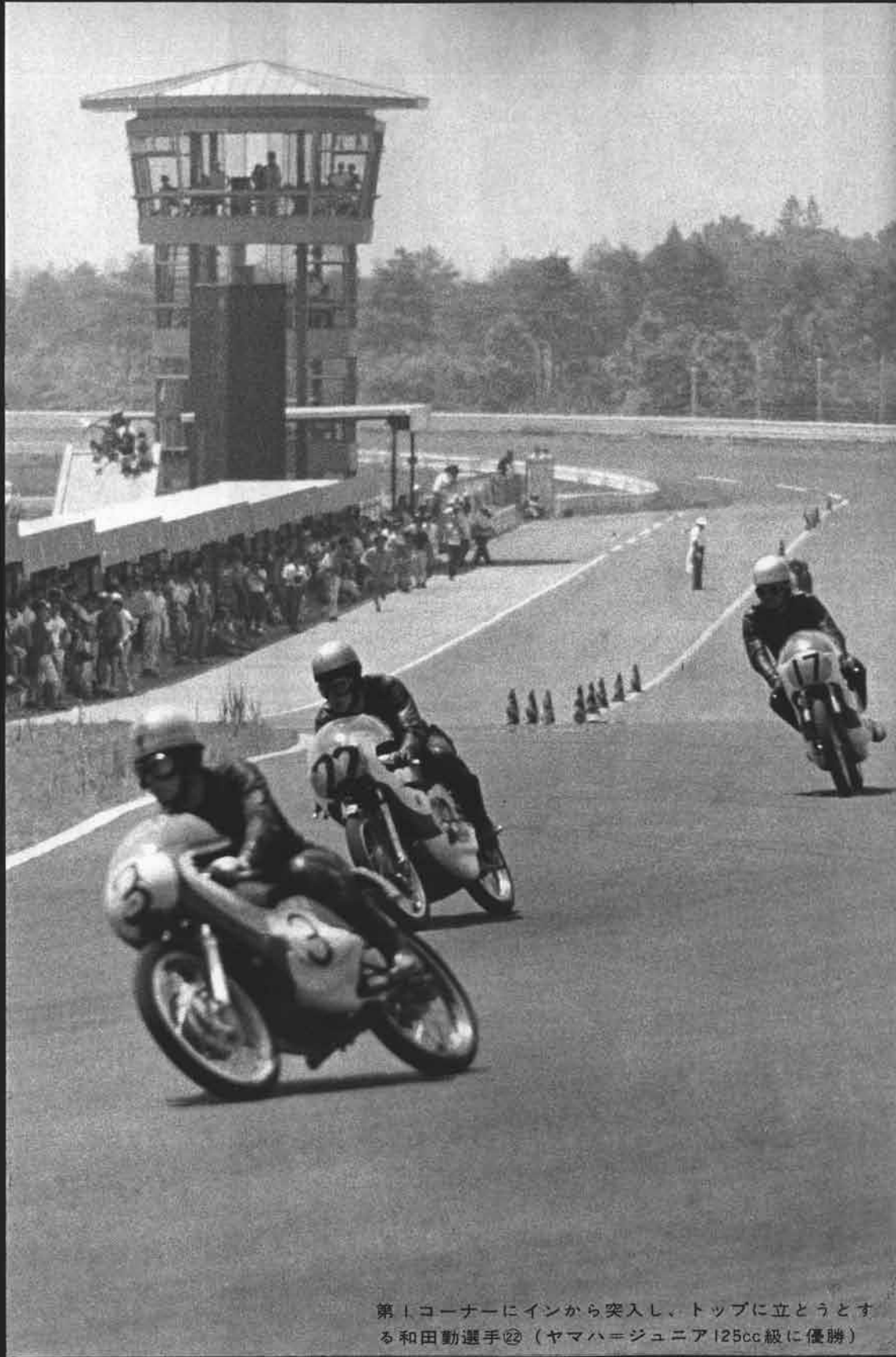
6月にオープンしたばかりの筑波サーキットで、はじめて行なわれるオートバイ・レースとあって、参加選手170人をこえる盛況ぶり。炎暑をはね返す熱戦を展開しました。

「スポーツはヤマハ」の時代をうらづけるように、各クラスとも、

ヤマハスポーツによる出場者が目立ち、決勝第1戦のジュニア90、125ccクラスで、熊野正人選手(スハラレーシングコンパニオンズ)、和田勤選手(スポーツライダーズ)がそれぞれ優勝したのを皮切りに、ノービス250ccクラスでは大光寺隆選手(茅ヶ崎ファルコンC)、ノービス125ccクラスでは、はるばるホームグラウンドの鈴鹿から遠征してきた青山英二選手(スズカササキチーム)が独走で栄冠を握り、ヤマハの実力が各選手によりいかに発揮されました。



ノービス125cc級に優勝の青山英二選手(ヤマハ)

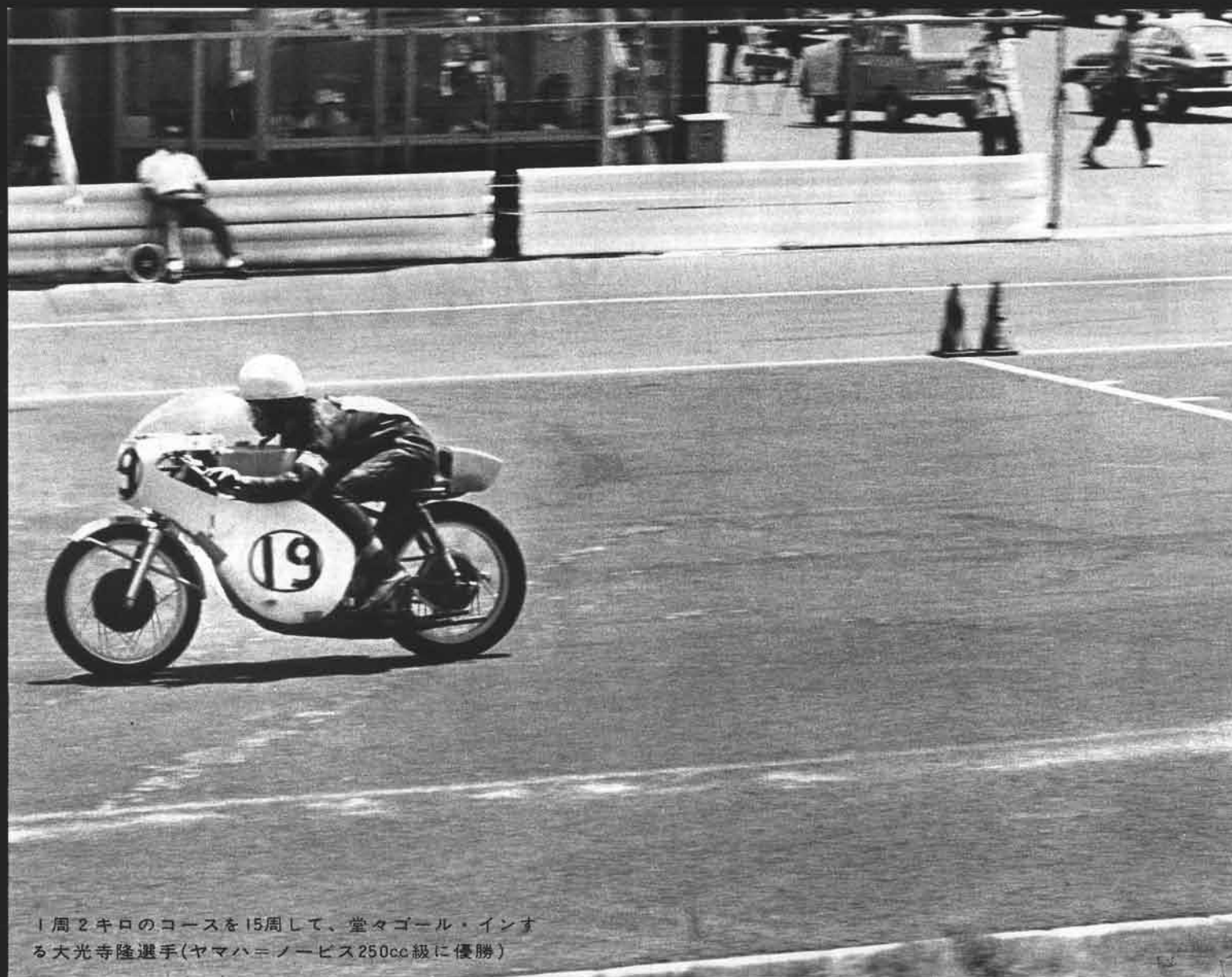


第1コーナーにインから突入し、トップに立とうとする和田勤選手(ヤマハ=ジュニア125cc級に優勝)

筑波サーキット 開場第一戦を飾る



みごとなコーナーワークで追いつける熊野正人選手59(ヤマハ=ジュニア90cc級に優勝)



1周2キロのコースを15周して、堂々ゴール・インする大光寺隆選手(ヤマハ=ノービス250cc級に優勝)

〈新しい二輪車時代を築くヤマハ〉



ヤマハトレールランド ぞくぞくオープン!

三重

ヤマハトレールランドが全国各地にぞくぞく誕生しています。すでにオートバイの新しい需要づくりに活躍しているヤマハトレールランド青森、ヤマハトレールランド盛岡、ヤマハトレールランド福岡、ヤマハトレールランド長崎にひきつづいて、このほど「ヤマハトレールランド釧路」「ヤマハトレールランド北見」「尾花沢ヤマハトレールランド」「ヤマハトレールランド辰の口」「ヤマハトレールランド千葉」「ヤマハトレールランド朝霧」「ヤマハトレールランド三重」が、はなやかにオープンしました。大自然を思いっ切り走る楽しさ、変化に豊かな地形で走行テクニクをみがく喜び、オートバイの新しいスポーツレジャーが、ヤマハトレールランドから生まれようとしています。

〔名古屋支店発〕見当山に建設されたヤマハトレールランド三重のオープン式典が七月十二日、津市長、津警察署長（代理）交通課長、等来賓と、約二千人の選手、観客の参列のもとで、盛大に行なわれました。定刻十時、まず神事が催され、トレールランド三重の発展と利用者の安全が祈られました。

開会式に入つて、まず（株）第一自動車服部社長が挨拶に立ち、地主、関係機関、フレンド店の協力に対し、謝意を表明。トレールランドが、今後、交通安全に寄与できるよう、販売店ともども立派な運営をする旨、決意を述べました。

津市長、津警察交通課長からは、立派な施設を建設した行為に対して感謝の言葉が述べられ、青少年の健全な育成のために、市および警察が全面的な協力を惜しまないとの、力強い挨拶がありました。

販売店代表の三重ヤマハ会会長、小亀信也さんも、喜びを隠しきれず、「梅雨の空、雲突きぬく見当山」と、一句披露。

最後に津市長によりテープカットがあり、荒井、小林、酒井のヤマハインストラクターの走り初めによって、ヤマハトレールランド三重が、目出たくオープンしました。

ついで、トレール教室、オープン記念トレール大会が、二千人の参加者によって行なわれました。

津市長、警察署長も祝福



神事もおそかに開会式。角永津市長がテープをきってここにオープン

頻繁にトレール教室を開催

〔北海道ヤマハ北見支店発〕北見市東領町に五月オープンしたヤマハトレールランド北見では、オープン記念モトクロス大会にひきつづき、すでに数回にわたってトレール教室が開催され、安全走行のテクニック修得に役立つと好評です。

ヤマハトレールランド北見は総面積一万坪。小高い山をとりかこむようにして、コースが設けられています。



写真右は北見新聞主催によるオープン記念のモトクロス大会。雨中での熱戦となった。下はランド入口附近。



北見

釧路

毎日MFJモトクロスも開催

〔北海道ヤマハ釧路支店発〕釧路大楽毛郊外の村山公園内に六月オープンしたヤマハトレールランド釧路は、モーターサイクルスポーツの発展に大いに役立っています。釧路から車で約十分。

国道38号線にほど近い立地条件と、野性の花々が咲き乱れる快適な環境が幸いして、三万五千坪におよぶこのトレールランドは、家族づれで利用する人びとでにぎわっています。

八月二日には、MFJ釧路支部主催の第七回モトクロス大会が、一周一・八キロのこのコースで開かれました。遠く札幌帯広、根室と、ほぼ全道からトレール・ファンが集まり、激しい熱戦をくりひろげました。出走車のほとんどがヤマハトレールによって占められ、ヤマハトレールの人気をうらづけていました。



初めて走りきた人にもすぐ分かる案内標識



オートキャンプにも最適

〔ヤマハ静岡発〕富士宮市人穴に建設されたヤマハトレールランド朝霧のオープン記念式典が七月十九日、盛大に行なわれました。コース入口のテープカットと同時にトレール教室のインストラクターが走り初めのスタートを切り、ついで、中部スポーツライダースのメンバーによる模範レース、市販車と改造車による模範レースなどが、はなははしく展開されました。

ヤマハトレールランド朝霧は、敷地約二万坪。高原にひろがる牧草地でオート・キャンピングにも最適。シーズンのにぎわいが予想されています。

朝霧



インストラクターも多数参加して正しいライディングを学ぶ。

辰の口

連日、ヤングマンでにぎわう



道なき道走るトレールシリーズ。思いっきり走れるヤマハトレールランド。

〔ヤマハ北陸発〕加賀百万石の旧城下町、金沢市郊外に、ヤマハトレールランド辰の口がオープンしました。

このトレールランドは、広大な敷地に、激しい起伏と鋭いカーブを取入れた、変化に富んだコースを有し、初心者からハイテクニックの持主までが楽しめ、また、一般道路では求められないトレールの醍醐味を満喫できると同時に、安全テクニクをマスターしようとするヤングマンで、いつもにぎわっています。

七月十九日には、ヤマハトレールランドのオープンを兼ね、MFJ公認モトクロス大会が、参加車両二百台、観衆三千人を集めて、盛大に開催されました。

この大会は北陸最大の参加者を集めたことでも注目されましたが、明日のモトクロスチャンピオンを志して参加した選手は北陸はもちろん、関西中京方面にもおよんでいます。このレースでも、90HT1、125AT1、250DT1のトレールトリオの活躍が、観客の目を見張らせました。

オープン記念トレール教室

〔東京支店発〕ヤマハトレールランド千葉が七月十二日、オープンしました。千葉県土気町紅葉ヶ丘に設けられた二万二千坪の敷地には変化に富んだコースが設けられ、トレール走行のハイテクニックが楽しめます。オープン記念トレール教室には七十人が参加。鈴木秀明、加藤清丸、三吉秀治等有名選手が、スラローム、ジャンプ、斜面横断と、模範走行を披露。ついで行なわれた模擬レースも迫力に富んだものとなりました。



ワァーい、やったぜ！若いお客さまのこの楽しそうな顔。

千葉

尾花沢

地元フレンド店が開設に協力



みなさんのご協力により、ここに尾花沢トレールランドをオープンします。

〔仙台支店発〕八月五日、山形県尾花沢市郊外に尾花沢ヤマハトレールランドがオープン。その開場式とオープン記念山形県第一回ヤマハモトクロス大会が、はなやかに開催されました。

尾花沢ヤマハトレールランドは、国道13号線より約一キロ。総面積一万五千坪で、山を切りくずして造成しただけに、起伏に富んだ地形に、ハイテクニックが学べるむずかしいコースがうねっています。

ヤマハトレールランドの建設に当っては、地元尾花沢市のヤマハフレンド店、小関自転車商会、稲沢モータース、齊藤輪店、五十嵐モータース、菅野輪店、長瀬輪店が協力して、借地の契約からコースの設定までを行なっていました。正式なオープンに先立つ八月二日には、はやくもトレール教室を開催するほどの熱の入れようです。

地元のユーザーもこれにこたえて、尾花沢レーシングクラブを結成。ヤマハトレールランドをホームグラウンドに、活躍を期しています。

オートキャンプ

自然を求めて、オートキャンプを楽しむ若い男女がふえています。あなたのお店のお客さまをさそって、オートキャンプをしてみませんか。お店を中心としたお客さまの「和」が強まり、スポーツクラブを結成するさいにも役立ちます。各地に建設中のヤマハトレールランドをキャンプ地に選ぶのも面白いでしょう。

◆オートキャンプの種類

- ① オートキャンプそのものを目的とする
- ② 二日以上におよぶツーリングあるいはトレールランを楽しむための手段として、オートキャンプを行なう。この場合は、オートキャンプよりも、走ることに目的がおかれている
- ③ ヤマハスポーツ教室などの行事と並行して行なう。

◆計画と準備

計画はめん密に①どんなコースをとって



どこでキャンプをするか。できれば予備調査がのぞましい。これによって、携行の品も変わってくる

② 雨期をさけることも大事。キャンプ地は水のあるところがのぞましい。危険なところ、不衛生なところ、虫のいるところ

ろはさける

③ 係りを決める。リーダー、食糧係、会計係など

④ 予算を決める

⑤ プログラム



を決める。何時にどこをスタートして、キャンプ地には何時に到着するか、時間割をつくる。キャンプファイヤーをたくかどうか。あらかじめ決めておく。キャンプソングなどをプリントして、みんなにくばるのも楽しい

⑥ 用具や食糧の準備。どのくらい必要か、計算して割出す。非常食も携行する。

◆用具リストをつくる

- 人数や日程、キャンプ場の設備の状態に応じて、用具を決める
- ① テント
- ② 寝具（寝袋か毛布）
- ③ 炊事用具、食器（缶切りを忘れない）
- ④ 食料品
- ⑤ 地図（五万分の）
- ⑥ スコップ
- ⑦ 清掃用具
- ⑧ 救急薬品・トランシーバ（トレールラン用）
- ⑨ ロープ
- ⑩ 予備ガソリン
- ⑪ その他日用品（ローソク、洗面用具、セロテープ、マジックインク等）
- ⑫ 大人数で行くときは、シャベル、山ナタ、ノコギリ、針金、ペンチ、木槌などを携行して、現地でテールや椅子、物かけなどをつくるのも楽しい。

へ新しい二輪車時代を築くヤマハへ

スポーツレジャーの巾を広げ
新しいお客さまをつくりだす

ヤマハミニ FT50



新発売

たとえば、いままで丸ハンドルの車にしか乗っていなかった人、年令的、体力的にオートバイには乗れないと思いきこんでいた人、オートバイは危ないものとひとり決めこんでいた人——、そんな、オートバイに対して喰わず嫌いで通してきた人を含めて、「ヤマハミニ」は、もちまえの素晴らしい商品魅力を發揮する画期的な新製品です。



小さい車体に
大きな特色

ご覧のとおり、「ヤマハミニ」はその名の示すごとく、全長一メートル五八五、全巾七〇〇、全高九三〇のミニ・サイズです。

しかし、ただ単に柄が小さいというだけのものではありません。本格派トレールの姿かたちに見られるように、中味は第一級の性能と、十二分なライディング機能を發揮できる設計となっています。

もちろん、かたちが小さく出来ていることから、「ヤマハミニ」ならではの大きな特色が、お店の三商売を広げます。



らくに足がつく
乗りやすさ

まず第一に、重量が五九ポンドと軽いため、だれもが手軽に取りまわせます。またシート高さは六四〇ミリと、かつてのスクーターに比べ、燃料タンクやエンジンが細身で、マフラーはフレーム内側にびったりおさまられているので、乗車しやすく、シートに腰をおろしたそのまゝの姿勢で、いつでも足を地につけることができます。

ゆったりと長めのシート、理想的な間隔を保つフロントレスト、そして扱いやすいハンド

マンダリンオレンジ
全長一五八五mm。ヤマハミニなら格納に困ることはありません。



ルまわりは、オートバイは初めてという人にも、安心した乗車感を与えます。

♣
デラックス装備
プラス高性能

装備が充実していることも「ヤマハミニ」の大きな特長。大型ヘッドランプ、大型フラッシュャー、大型テールのライト類に加えて、ブレーキはヤマハ特許の防塵防水式を採用。抜群の安全性です。

またエンジンは5ポート・オートループ方式の、低・中速にとくにつよい四馬力2サイクル（ロータリーバルブ吸気）で、これに組合わされる変速機は四段リターン式と豪華そのもの。フレームは二本ダウンチューブの頑健なパイプ製で、フロント・クッションにはセラリアー二型のオレオを、またリヤにはスイング・オレオを配しています。タイヤは新開発の十五インチで、そのパターンはトラリアル型。テンションバー付のアップハンドル、クロームメッキ仕上げのセパレートメーター、ワンハンドシステムのレバーホルダー、両面式のイグニッションキーなど、どこをとってもつかい装備です。

そして、性能は七〇キロ/時のスピードと二十度におよぶ登坂能力、リッター八〇キロの経済性と、余裕たっぷり。

♥
カラフル・ヤマハ
で飛びだそう

「ヤマハミニ」の仕上げは、マンダリンオレンジ、コンベティションイエロー、メタリックグレーの三色が選べ、しかもすべてホワイトとのツートンというハイファッションな出立ちです。

このカラフルな「ヤマハミニ」は、実用的なタウンサイクルであると同時に、高級なレジャービークル、すなわちもつとも新しい遊びを創る乗り物でもあるのです。



- パワフルな 5 ポートエンジン
- 本格的リターン式 4 段ミッション
- テンションバー付ハンドル
- エンジンガード付フレーム
- トレールユニバーサル 15" タイヤ
- 明るく安全な大型のライト類
- セリアーニ式フロントフォーク
- 特許の防塵防水式ブレーキ

全長	1585mm
全巾	700mm
全高	930mm
軸間距離	1055mm
最低地上高	160mm
乾燥重量	59kg
最高速度	70km/h
舗装平坦路燃費	80km/ℓ (30km/h)
登坂能力	20°
エンジン	2 サイクル・5 ポート・ロータリーバルブ
排気量	49cc
内径×行程	40.0×39.7mm
最高出力	4.0ps/7500r.p.m.
最大トルク	0.45kg-m/5000r.p.m.
始動方式	キックスターター
点火方式	マグネトー
潤滑方式	分離給油 ヤマハオートループ
バッテリー	6 V 2 AH
燃料タンク容量	4.3ℓ
オイルタンク容量	1.0ℓ
タイヤサイズ(前)	2.50-15-4PR
(後)	2.50-15-4PR



メタリックグレー

4馬力、4段変速。新しいスポーツレジャーを生む話題の車。

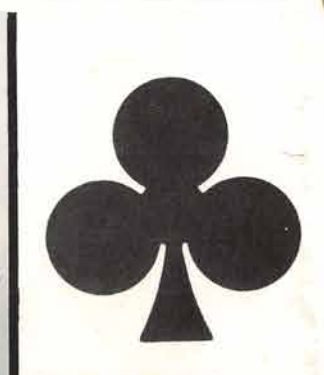
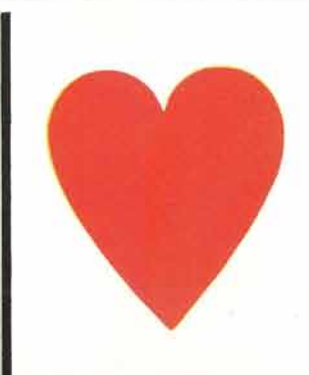
たとえば、いま流行のオートキャンピングのトランスポートレションとして、あるいは浜辺を走り、砂丘を越えるビーチサイクルとして、さらにミニバイクレース、ミニトレール、トレールバギーとして、どこにでも、どのようににも使われられます。

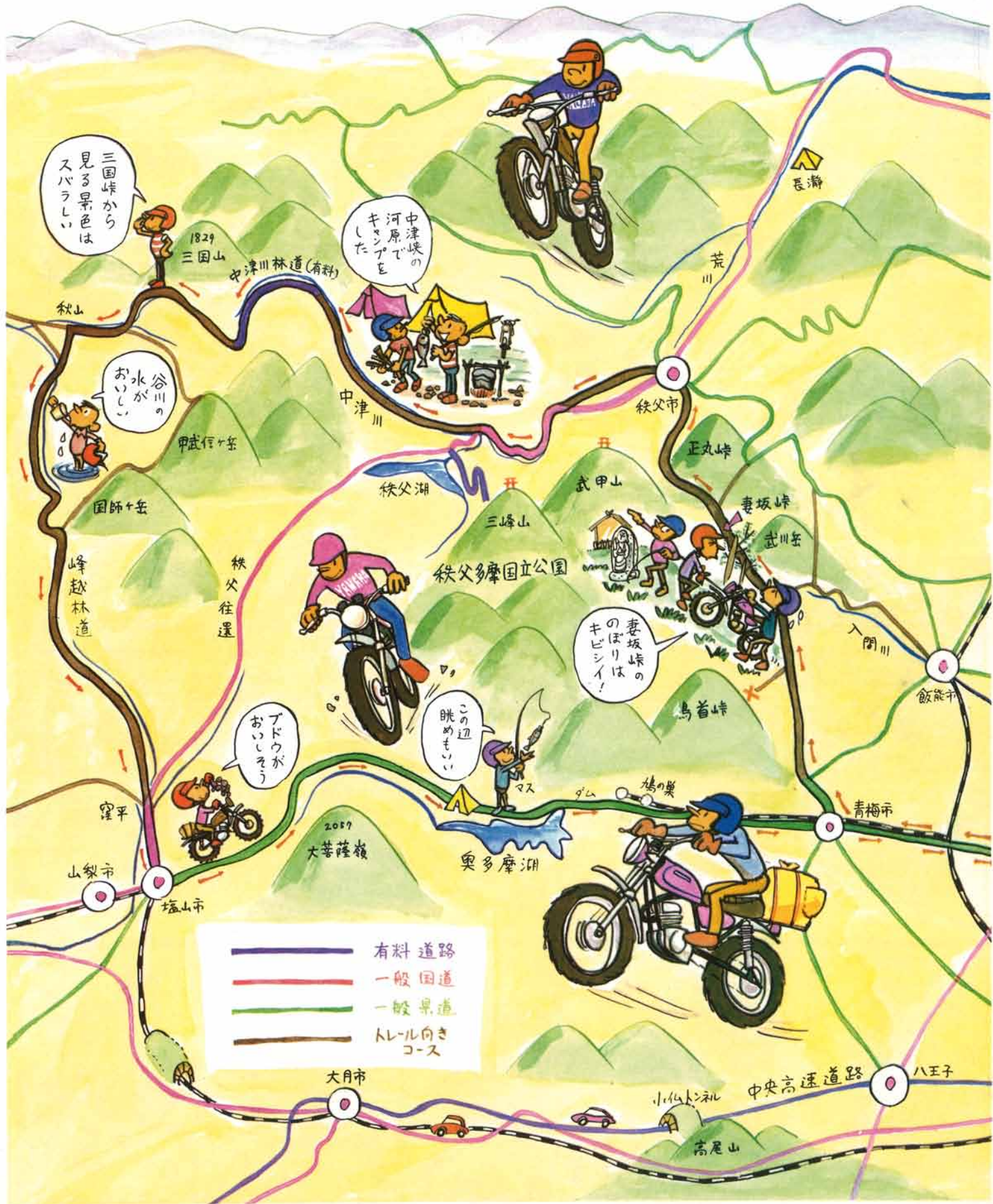
ここにスポーツレジャーの新しい需要を掘り起さずにはおかない「ヤマハミニ」の商品的な魅力があるのです。

行動的な若いお客さまはもとより、意識的にオートバイを敬遠していた方々も含め、新しいスポーツレジャーを創りだす「ヤマハミニ」を積極的に売りこんでいこうではありませんか！



エンジンガードもついでいてトレールバギーも平ちゃら。





三国峠から
見る景色は
素晴らしい

中津川の
河原で
キャンプを
した

谷川の
水が
おいしい

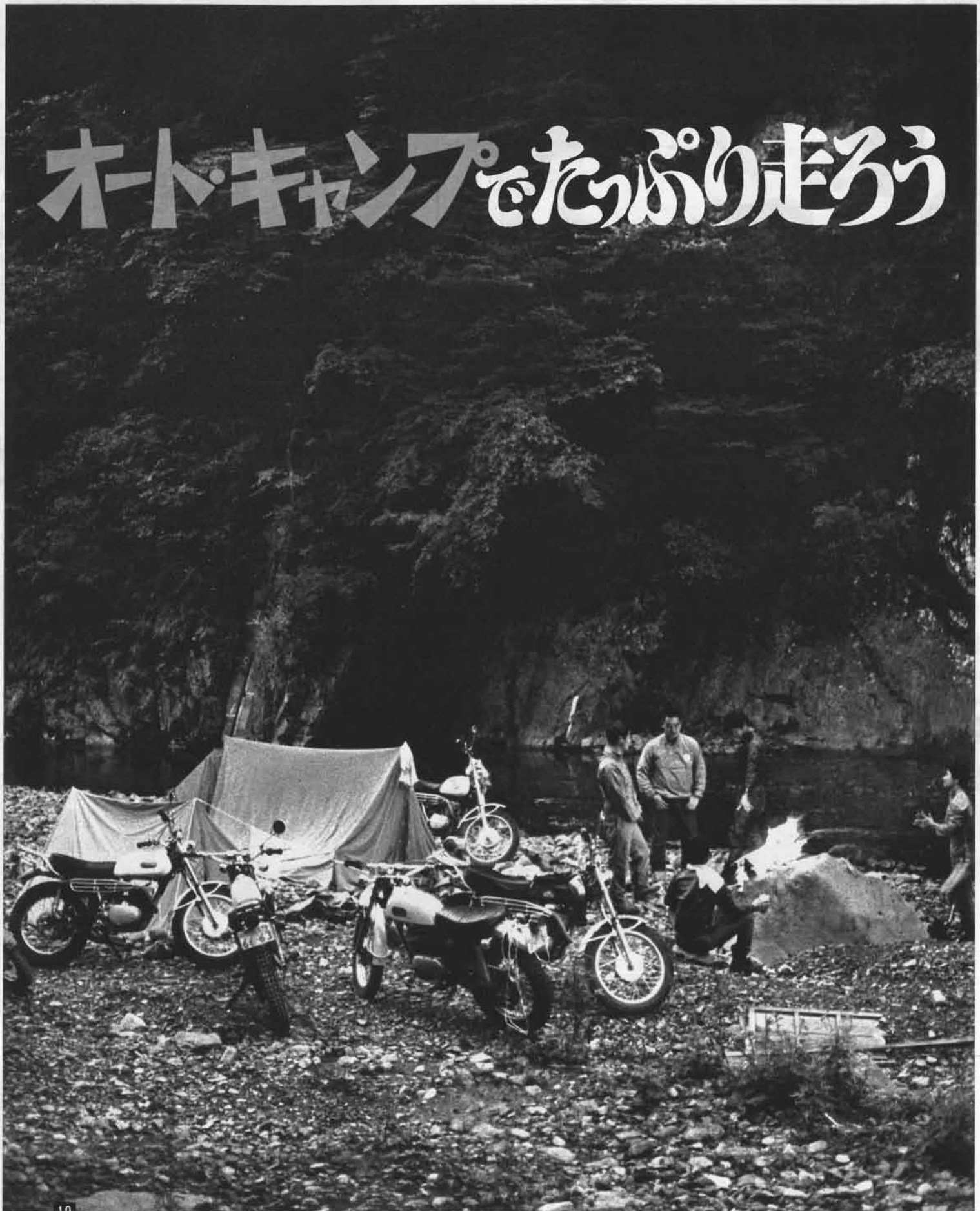
妻坂峠の
のぼりは
キビシイ!

ブドウが
おいしい

この辺
眺めもいい

- 有料道路
- 一般国道
- 一般県道
- トレール向きコース

ホト・キャンプでたっぷり走ろう





即席の卓を囲んで、きょう一日の楽しいトレールランを語りあいながら、ウマイ、うまい



夜のトバリが静かにおりて、百鬼夜行の世界がはじまる……。俺たちグッスリ眠ろうぜ



ソーラッ、ヨット、あふれるパワーにもものいわせて、トレールの沢わたりとごさあーい。

次いでアタックをはじめたのが妻坂峠。標高八三九メートル。麓の売店のおばさんの、「戻ってくるのを楽しみにしているヨ」の声も聞かばこそ、五人の勇者は勢いのよい排気音を辺りの木立にこだまさせて出発した。妻坂峠での最初の難関は丸木橋。しかし、ここはまだ序の口。本当の難関は峠の地蔵さんに至る高度差一〇〇メートルの登りであった。トレールの名車、D.T.I.のパワーにはいささかたりとも不足はないが、胸つき八丁のつづら折れ、くの字に曲がるコーナーは、三十センチの道巾では曲がりきれず、インに足

最初のアタックは鳥首峠。標高九三七メートルの登山道だ。しかし、このコースは途中で山に働く人々から阻止されてしまった。二本の足で歩いて、むずかしいという。丸木の一本橋やら、崖登りがあるからだ。ならば行先変更だ。いたずらに危険を求めて走るのがトレールランではない。駄目と分かれればいささよくひきさがろう。

夜明けの東京を背に、ハンドルを奥多摩へと向ける。いつしか道は舗装がきれて、砂利道となる。山合を縫って走れば、道巾はいよいよせまく、勾配も急となって絶好のトレールランがはじまった。

めざす目的地は長野県白樺湖となっているが、果して予定通りの道のりが稼げるかどうかは大きな疑問だ。というのも、そろってD.T.I.にまたがる五人の若者たちは、ありきたりの地道を走るだけでは満足せず、林道や登山道を求めてのハードなトレールランに情熱を燃やしているからだ。

テントに寝袋、クッキングセットに食糧を積みこんで、トレールランに旅立ったのは東京ラリークラブの一行五名。

をつかねばならない。しかし勾配が急だけにただ足をだしただけでは地面にとどかない。これがクセモノで、何度か愛車と共に大地に寝たが、それでも、全員そろって峠の地藏さんにご挨拶することができた。

下りにかかって、勾配は登りより急。一個所完全に道が寸断されている難所もあって苦労させられたが、谷川の冷たい清水を口にした途端、いままでの疲れはどこへやら、新たなファイトが湧いて、次の目的地へと勢いのよいキツクがかけられた。

待望のキャンプ地として選ばれたのは中津

川峡。水はけのよい、小高い岸辺を選んでテントが張られる。カマドをつくる者、マキを捜しに出かける者、米をとぐ者――、互いに仕事を分かちあって楽しい夕飯がつけられていく。きょうの馳走は大盛りのカレーライス。せせらぎでほどよく冷やした缶ビールをアベリチーフに大いにバクついた。

夜のとぼりが静かにおりて、宝石をちりばめたような星空のもと。キャンプファイヤを囲んで大合唱。ヘッドライトの光を灯せば大きな影が川面にゆれる。これをオートキャンプビングならではのダイゴ味というもの。

カジカの鳴き声を耳に、いつしか大自然の

懐に抱かれて眠る。

明ければきょうも上天気。白樺湖までは遠いが、未知の林道が待っている。元気に行こう、走ろうぜ。

第二日目の一行は、秩父から金五十円也を支払って中津川林道に入り、埼玉・群馬・長野の県境、三国山（一八二九メートル）を走破、信濃川上秋山から昨年九月に開通した峰越林道をぬけて、山梨県塩山市に下り、青梅街道を東京に向けて、ご機嫌なトレールランを満喫したものだ。

総走行距離四二五キロメートル。一泊二日の行程であった。



ずらり揃ったDＴの仲間たち。空気はうまいし、エンジンは快調。まさにご機嫌。



ソロリ、ソロリと、手作りの橋を渡る。道はいよいよ険しくなってきた。



これは大変！途中で道がきれている。仲間同士手をかして、レンジャーなみの大活躍。



峠のお地藏さまと記念のスナップ。妻坂峠をオートバイで越えたのは我々が初めてだ。



メイトからXSIまで。このステッカーが仲間のしるし。

こんにちは ヤマハです

コンパニオン(仲間)が集まるお店

東京都世田谷区
スハラモーターズ

■レース場でもなごやかな雰囲気

モーターサイクルスポーツの華、ロードレース。富士スピードウェイや鈴鹿サーキットあるいは新設の筑波サーキットで開かれるロードレースに、ヤマハを駆って参加するグループがふえています。

真剣勝負に臨むような緊迫した雰囲気グループが目立つ中で、いつも、なごやかな空気をまきちらしているグループがあります。勝敗を超越してレースを楽しむ。これが「スハラレーシングコンパニオンズ」の身上なのです。

東京都世田谷区上野毛のスハラモーターズを根拠地とするこのチームは、総勢十五人。ビットからサインを出したり、写真や記録映画をとることによって、メンバーのすべてがレースに参加します。スハラモーターズの経営者、榎原孝幸さん(34才)の奥さんや、長女の由美ちゃん(9才)もチーム・メイトです。榎原さんを助けてスハラモーターズの発展に努力する弟の熊野正人さん(22才)もライダー兼メカニック責任者として、お客さまと一緒に活躍します。

■お客さまはすべて仲間同士

「スハラレーシングコンパニオンズ」の「コンパニオン」とは「仲間」という意味です。スハラモーターズにとって、お客さまは、すべて仲間なのです。



レース場でも「コンパニオンズ」の名にふさわしい、なごやかさ。



M C F A J 第2回日本選手権には5人が出場し、好成績を収めた。写真はノービス50cc級のスタート。② 榎原さん、③ 渡辺さん。



明るい笑顔の絶えないお店。右から熊野さん、榎原さん、お客さまたち。



だから、お店に見えるお客さまも、この兄弟を「アニキ、マー坊」と呼びます。

「お客さんが店に入ってきたとき、いらつしゃい」「こんにちは」という言葉がかわされたとしたら、それはお客さんと私との間に一線が画されていることになりました。「アニキ」「やあ」という挨拶がかわされてこそ、「コンパニオン（仲間）」だといえます」榎原さんがいうように、お店とお客さまの間には一種独特の雰囲気生まれています。ときには人生相談を持ちかけられたり、あるいは夜中の十二時、一時まで、なごやかな談笑がつづく日もめずらしくありません。榎原さん熊野さんとも、お客さまと店主側という意識を極力なくすために、つなぎ服などは着ないという個性的な考え方を持っています。

■能力と用途に応じた車を勧める

榎原さんがスハラレーシングコンパニオンズを主宰しているのは、熊野さん同様、みずからレースに出場するのが好きなことと、レースをつうじてお店の技術を実証するためです。だから、レーサーといっても、決して特殊な部品を使わず、いわばチューニング技術で高性能を引き出すことを目的にしています。同時に「レースは金をかけなくともできるものだ」ということを、榎原さんたちは、体験をつうじて主張しつづけています。

榎原さん、熊野さんが、ライダーとして、レースに出場するのも「実際に百キロ、二百キロのスピードを体験しないと、お客さんに對して、いいわけもできないから」です。この気持は、たとえばヤマハスポーツ650XS1が発売されると、まず、自分で一台購入して、性能を確かめてから、お客さまの質問に「レースは楽しいが、反面、非常にこわいものだ。これと同様にオートバイに乗ることは危険をとまなうが、乗り方さえちゃんとしていけば、こんなに便利なものはない」

レースを安全に楽しむために、レースのこわさを徹底的に、お客さまに知ってもらいます。

一般のお客さまに對しても、これと同様です。「いままでも50ccに乗っていた人が、急に650ccに乗るのは、どだいムリ。たとえお客さんが希望しても、能力や用途に合わない場合はおことわりしています」「安全」を人一倍重視する精神は、長いレース経験をへて、確立されたものでしょう。

■業務に使われる車の修理を優先

榎原さん、熊野さんにとって、レースはあくまでも趣味であり、商売と混同すべきものではありません。レースの前日でも、お店の仕事はきちんとやりますし、また、都合のよいことに、お客さまのほうもまた、よく理解してくれていて、レースが近いと、修理の車を持ちこまない習慣がついてしまっています。レースは好きだが、レースにかたよっていない証拠には、修理についても、おそばの出勤など、業務用に使われている車を優先するのが、スハラモーターズのモットーです。

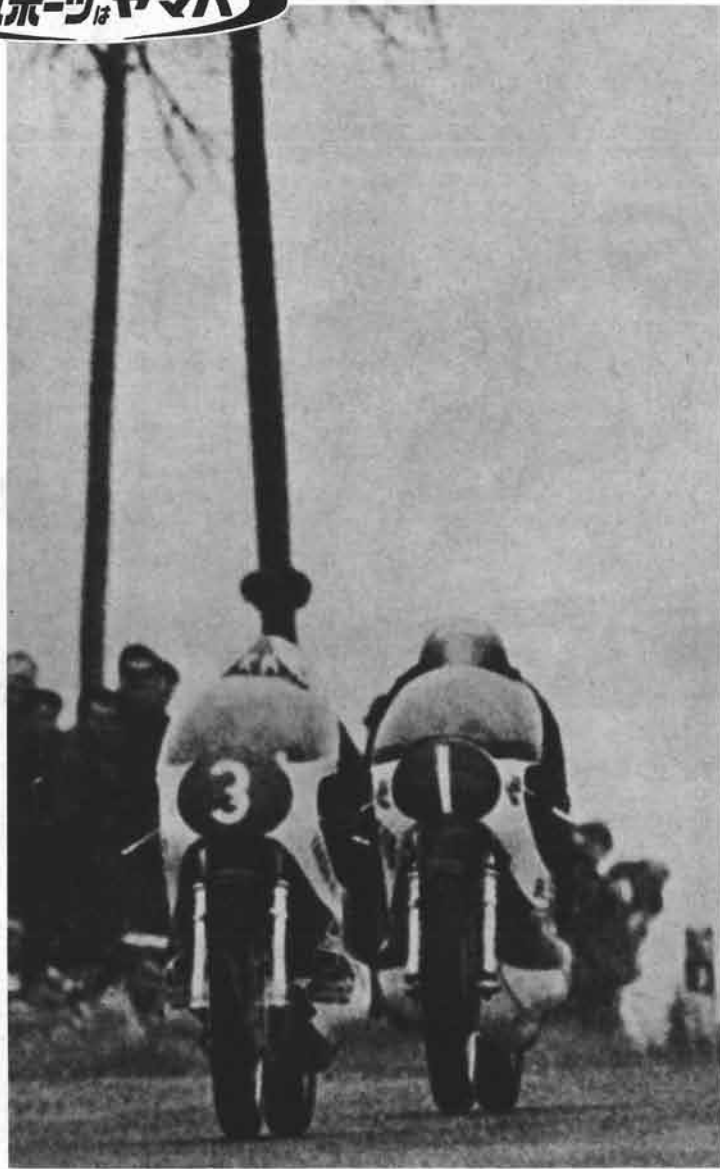
レースに出場するお客さま、トレールランにオートバイの新しい楽しみを求めらるお客さま、毎日の仕事にヤマハを使うお客さま、それぞれの用途こそ異なれ、同じスハラモーターズのコンパニオン（仲間）として、お互いにわけへだてのない交際を楽しんでいます。

スポーツはヤマハ

世界各地で連勝のヤマハ



新鋭B・ヒンドル選手TR2でジュニア級制覇
—バーサーストGP、オーストラリア—



時速140マイルの競り合い
①はK・キャラザース、③はK・アンデルスンで共にヤマハ・(チェコGP)

へスポーツはヤマハ
国際モーターサイクルスポーツシーズンは
今がたけなわですが、世界一速いヤマハオー
トバイは、世界選手権ロードレースをはじめ
とする各地の国際レースで連戦連勝の成績を
おさめています。

●世界選手権ロードレース

六月二十七日に行われたシリーズ第五戦の
ダッチTT二五〇cc級レースは、P・リード
K・キャラザース、R・ゴードルのヤマハ三
ライダーが最後まで競り合いましたが、約三
秒の差でゴードルがリードの追い込みをかわ
して優勝しました。

第六戦のベルギーGP(七月五日)は、豪
雨の中で、有名なハイスピードコースのフラ
ンコルシャンに、ゴードル対キャラザースの
二五〇cc級デッドヒートが展開されました。

両者ともヤマハのライダーですが、今年の
タイトルを争うライバル同士でもあり、各ラ
ップ首位が入れかわるほど白熱したレースに
なりましたが、この勝負もまたゴードルに軍
配がありました。

この両者は、それから一週間後に行われた
第七戦の東独GPでも激戦を再現し、二十五
万をオーバーする大観衆に満点のスリルを与
えたのです。

レースはキャラザースや有利の中に展開
されましたが、終盤のマシントラブルで形勢
逆転、ゴードルがダッチTT以来の三連勝を
果し、タイトル獲得に絶対有利な足がかりを
固めました。

しかし、七月十九日の第八戦チェコGPで
は、キャラザースのヤマハが快調で、TT以
来久しぶりにウイナーになりました。

キャラザースが連勝を続けるゴードルに一
矢報いたわけですが、両者の勝ち星はこれで
四対三になり、残る四つのGPでタイトルの
行方がきまることになりました。

ゴールを目指すR・トームズ選手

オランパイク・オーストラリア

ダートでも

抜群の成績

南洋のグアム島では、アメリカ軍GIによるダートレースが大流行。殆んど日曜日ごとに豪快なレースが展開されていますが、ここで抜群の成績をあげて圧倒的な人気を得ているのがヤマハ。卓越した操縦性能と、タフネスなパワーを誇るトレール車が、縦横無尽の活躍で、常に上位を独占しています。



MZをラップするR・ゴールド(ヤマハ)シリーズ四勝目は目前 (東独GP)

開幕以来の八GPの中、ヤマハがおとしたのは第三戦のユーゴGPだけであり、その他はすべて圧倒的優勢の中に優勝、他の上位独占をなしてきてきました。

●その他のビッグレース

次々と各地から寄せられるヤマハ勝利の報の中、主なものをひろってみると、まずニュージーランドのエアスト・デイスコム選手がヤマハ三五〇ccTR2を取ってニュージーランドGPのジュニア・セニア両級のウィナーになりました。

ジュニア級レースでは、ルアブナパークサーキット初の五十秒を割るラップ新記録を樹立し、ヤマハマシンの驚異の性能を改めて印象づけたのです。

さらに、オーストラリアのオランパイクレースウエーで催されたビッグレースミレーティングでも、ヤマハは十九種目の中の十三種目に優勝するという活躍ぶりでした。

とくにジュニアA級レースでは、二五〇ccTD2に乗って出場したR・トームズ選手がウィナーになったのを始めとして、十位のうち九位までがヤマハのライダーによって占められました。

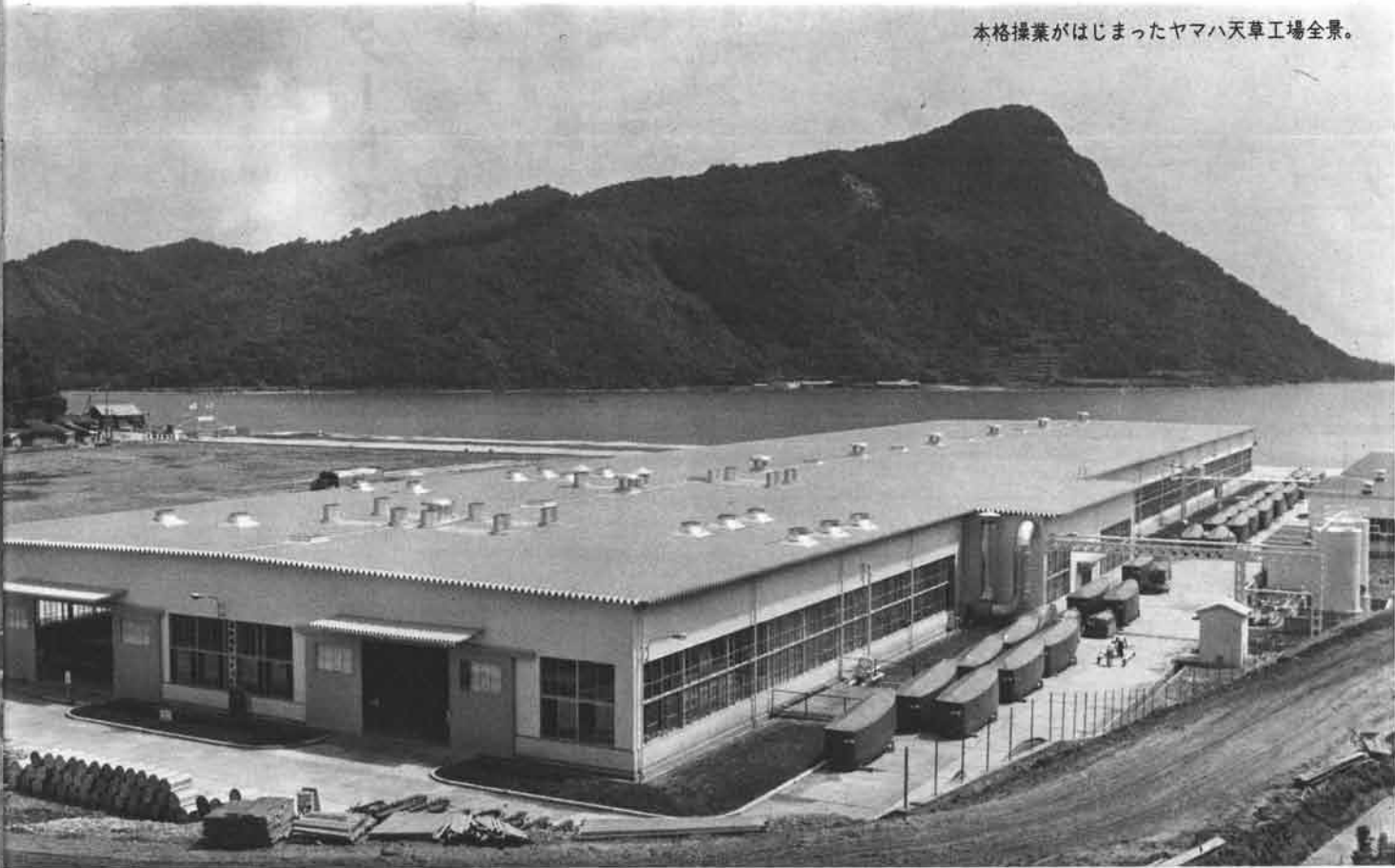
またもう一つの大レースであるバーサーズトGPにおいても、ヤマハライダーは各クラスにわたって好成績を収めました。

北のカナダでもヤマハは依然として無敵の王座を堅持しています。

オントリオのモスポートパークで行われた第三回カナダGPで、ヤマハは一二五・二五〇・五〇〇およびオープン各クラスを制覇しました。

ヤマハライダーの中で、最もさわ立った活躍ぶりを示したのは、D・マックグニエル選手で、前記の種目すべての勝利をさらうという放れ業を演じて観衆を驚嘆させました。

本格操業がはじまったヤマハ天草工場全景。



明るく、清潔で、合理的な生産ラインが組込まれ、生産は急ピッチで上昇している。



天草工場竣工披露パーティには、地元の関係者をはじめ寺本熊本県知事、赤穂姫戸町長らの出席のもとに盛大に行なわれた。

ヤマハ天草工場がスタート

和船・ボートの生産に新威力

かねてより建設をすすめていたヤマハ発動機株式会社天草工場（熊本県天草郡姫戸町）がこのほど完成、七月二十一日に完工式を挙行しました。

こんど完成したのは第一期工事分で、敷地七万五千平方メートルに総工費約四億円で六千四百平方メートルの船体工場をはじめとする電気機械棟、食堂、厚生会館などを建設したもので、ローボート、フィッシュヤーマン、和船、箱船、漁船など、月産二千隻を予定して、本格的な稼動に入りました。

ヤマハレーシングチームの総監督役を演じた河島支店長とパラマウント映画のスタッフ。



ユナイト映画のスタッフ連は大のヤマハ・ファン。中央350R2に乗るのがアーサー監督。



アリスのレストランのワンシーン

ヤマハ、映画でも大モテ

近着二大作品で活躍

近々公開されるアメリカ映画で、ヤマハが大活躍するという話題。

〔その一〕 パラマウント社が製作費十数億円をかけて世に問う超大作パナビジョン映画『Little Fauss and Big Halsy』（日本語に訳せば、チビとノッポ）かで、ヤマハオートバイが縦横無尽の大活躍をする。

ストーリーは、題名の通り、チビとノッポの二人のアマチュアライダーが将来のレーサーになることを夢みながら、各地のレースに参加し、ロマンスを巻き起すというオートバイを中心に現在のアメリカにおける若い世代をえがいた現代もの。

ここに出てくるオートバイの殆んどすべてがATI、GTI、DTIのトレールや、TD2、TR2などのロードレーサー。アリゾナの広大な砂漠のレースやサンフランシスコのロードレースなど、オートバイファンならずとも手に汗を握るシーンの連続といわれている。またヤマハインターナショナルの河島支店長が特別出演しているのも話題の一つ。

〔その二〕 こちらはユナイト映画の「アリスのレストラン」。ストーリーはアメリカの現代の若者たちの行動、もの考え方を追求したもので、ここに出てくるのが、YCS110とか、R2、RC2など。

アーサー・ペンほかスタッフの連中が大のオートバイマニアであるところからヤマハが選ばれたものだが、さて、ヤマハの活躍ぶりはスクリーンでとくとご覧いただきたい。

世界的にブーム再来

輸出好調の国産二輪車

★もともとポピュラーなスポーツレジャー用品として、あらゆる階層から大きな支持をうけているのがオートバイで、海外においてもオートバイの需要は伸びるいっぽうです。

〔日刊工業新聞〕世界的なオートバイブームの再来により、国産二輪車の輸出が好調な伸びをみせている。最近の傾向として、とくに二百五十cc以上の大型車に人気が集中しているため、金額の伸びは台数の伸び以上に大幅で、昨年の五割増を記録、業界はウケに入っている。

国内需要もおう盛で、メーカーは輸出を消化しきれず、受注残をかかえているほど。

この二輪車生産はすでに全世界の五割に達し、先発のヨーロッパ勢を抜いているが、大型車を軸とする商品開発がすめばさらに伸びるのは確実と業界は強気になっている。

日本自動車工業会調べの一月六月における二輪車輸出実績によると、総合台数は八十三万九千二百四十四台で、前年同期にくらべ十九・二％の大幅増をみせている。しかし車種別



にみると、もともと伸びているのは自動二輪車（二五—cc以上）の二・一—三倍で、続いて原付二種（五—一—二五cc）三九・六％増、原付一種（五〇cc以下）三六・三％減となっており、世界的に二輪車の大型化傾向が強まって、金額的にみると前年同期にくらべ四七

・七％と大きな伸びになった。

こうした世界的に二輪車需要が活発であるのは①自動車により交通事情が悪化しているため、手軽に乗れる二輪車が見直されてきた②レジャー用に多く使われはじめた③二輪車によるスポーツが盛んになってきた④メーカーの商品政策が図に当たった——などがあげられているが、こんごも大型車を中心として二輪車需要は伸びるものとみられている。（八月四日）

モータースポーツの新しい場 ヤマハトレールランド

★オートバイを楽しく乗りながら、あらゆる運転のテクニックが学べるヤマハトレールランドは、若者たちの別天地。大自然を思いっきり走れる場の提供は社会的にも大きな意義をもつものとして好評をうけています。

〔日本輪業通信〕昨年のレジャーの変化には著しいものがあり、より健全な、より参画する喜びをもつスポーツレジャーへの急速な盛りがみられている。

このなかにおいて、もともとポピュラーな屋外のスポーツレジャーの用品としてオートバイがある。モータースポーツの幅は大きく広がり、トレール走行など一般道路上だけでは味わえなかったスポーツの醍醐味を知ることができている。

しかし、このようなモータースポーツの新しい要求に対して健全な楽しむ場所がなく、一般公道上的の暴走などといった反社会的な結果をしばしば見ることがある。

そこで、ヤマハ発動機（株）は、今後の健全なモータースポーツの発展を図るため、あらゆる道路状況に適應したオートバイの正し

い基本テクニックを、第一線のライダーを講師に、初心者の方のオートバイの安全な乗り方からメカニックの技術まで指導する「ヤマハトレール教室」を常設し、あわせて自からの心身の練成する場を目的として、ヤマハトレールランドを各地に開設し、ユーザーの好評を得ている。（七月二十五日）

ゴールドかキャラザースか

世界GP二五〇cc級の覇者

★一九七〇年度世界選手権ロードレースシリーズもいよいよ終盤をむかえました。

選手権の主流である二五〇cc級は、予想通りヤマハのライダー同士のタイトル争いが烈しく展開されています。

現在個人得点数でトップにあるのはR・ゴールドですが、昨年のチャンピオンK・キャラザースも二年連続制覇を狙って、第九戦のフィンランドGP以後のレースでの巻き返しをはかっています。

ゴールドかキャラザースか、とも角選手権はこの両ライダーのどちらかにおちつくことは確実ですが、果してどちらが有利か、これまでの戦績から判断して外紙は次のように予想を立てています。

〔モーターサイクルニュース〕優勝四回、二位、三位各一回で合計得点八十二のゴールドに対して、キャラザースは優勝三回、二位一回で合計五十七点。

これらの数字だけから判断すると、ゴールド絶対有利のように思えるが、そのレース内容を検討すると必ずしもそうとはばかりはいえない。

チェコGPまでの八レース中、ゴールドのタイトルは二回であったが、キャラザースは



四回、実に出場したレースの半ばをミスしているのである。

キャラクターズのリタイアの原因は、マシンの点火系統の不調にあったが、ミスしたレースの差が両者の得点面にあらわれているのである。

両者が全レースを完走して勝負したのは、第四戦のTTおよび第六戦のベルギーGPの二回だけであったが、共に一位、二位を分け合って記録面では一勝一敗になっている。

しかし、キャラクターズが二位になったベルギーGPも、レースはキャラクターズのペースで展開され、最終周のマシン不調で優勝を逸する羽目になったものである。

無得点に終わったその他のGPでも常にキャラクターズはレースをリードしていた。完走すれば必ず勝ち、さもなくばリタイアいわばオール・オア・ナッシングという言葉通りの戦績といえる。

ところで、第八戦のチェコGPに優勝したキャラクターズのヤマハは快調そのもので、明らかに悩みの種であった点火系統に著しい改良が加えられていることがわかった。

残るはフィンランドGPをふくんで四レース、優勝回数で一回リードしているゴールドが覇権への最短距離にあるのは確かであるが、まだまだキャラクターズにもチャンスは残されている。

シリーズは十二戦なので、有効得点はベスト七レースの合計ということになるが、優勝六回、二位一回といったところがタイトル獲得の大体の目安になろう。

このラインに到達するには、ゴールドがあ

と二勝、キャラクターズが三勝というわけであるが、この成績なら相手の順位とは無関係にタイトルを手中にすることができ。

覇権の行方を占ううえの最大の鍵は、キャラクターズのレーサーが果して今後も、チェコGPの好調を持続できるかどうかということである。

九戦、十戦あたりでレーサーの不調が再発するようなことになると、最終戦をまたずにゴールドが初のチャンピオンシップを獲得することになろう。

そうでない場合は、チャンピオンシップは最終戦のスペインGPにまで超越される可能性が極めて濃厚である。(七月二十二日)

飲酒運転を全面禁止

新道交法八月二十日スタート

★警察庁は新時代の交通行政の確立を目的として、道路交通法の抜本改正をすすめているが、先の国会で成立をみた飲酒運転の罰則強化、運転免許取消期間の延長、交通巡視員制度の新設など、道交法改正にともなう同法施行令の改正が七月二十四日の閣議でまじり道交法、同施行令ともに八月二十日から実施されることになりました。

〔二輪車新聞〕今回の改正道交法の実施が目されるのは、その内容が飲酒運転者をはじめめとして運転不適格者の排除が一段と強化されることに加えて、少年にも交通反則金が適用されることなど新しい試みが実施されようとしていることである。

施行令の改正は、まず飲酒運転の罰則強化として、処分の対象となる酒気帯び運転の範囲を一リットルにつき〇・二五ミリグラム血液一ミリリットルにつき〇・五ミリグラ

ム、とするいっぽう、酔っぱらい運転の違反点を9から12へ引上げるとともに、酒気帯び加算の範囲を拡大している。

たとえば、いままでは酒気を帯びて速度違反(二十五軒/時未満)を行なうなど他の違反と重なった場合の加算点数は7点で、その範囲は道交法一二二条に規定する違反行為に限られ、停車違反など軽い違反では加算されなかったのを、改正では合図不履行、警告器吹鳴違反などほとんどの違反にまで拡大、飲酒運転の一掃を図っている。

また、今回の道交法の改正でもう一つ悪質運転者の追放策として注目された免許取消された運転者が再び免許を取れない期間、いわゆる免許の欠格期間の三年間の延長にともなう措置として、過去三年間処分歴のないものであっても罰点が35になっている場合は免許の欠格期間を三年間とすることにしているほか、処分歴二回の場合は5点でも一年間の欠格期間を置くことにしている。

また、従来は無免許運転により点数がついていたものは、仮りに免許試験で合格しても免許の拒否および保留等の処分が行なわれ、この場合、受験合格後、拒否されたときを起算日としていたが、改正では点数がついたときからの起算にあらためるいっぽう、拒否の最高期間を三年間に延長している。

これはこれまでは無免許運転で免許の取得を拒否された場合、従来の方法では拒否されている期間中に二度三度と無免許運転を繰り返して行なっても拒否の期間には変化はなく、また一回の無免許運転後、つよく反省、その後ある程度の期間を経過して合格しても拒否の期間が同じであるといった不合理があるのをあらためているもので、正直者はそれなりに、また悪質なものは悪質ななりに処分ができる大きな特徴となっている。

(七月三十日)

■ ヤマハサービス・コーナー ■

セールスの方、サービスの方、そして事務の方、お店のみなさんでご覧ください。お客さまを迎えたときの“話のタネ”に絶好です。

■ タイヤのトレッドパターンの役目

タイヤといえば、誰もががすぐに空気入りの、クッションのよいゴム製タイヤを思い浮かべるでしょうが、電車の鉄製車輪もタイヤであれば、大八車の木製リムをもった車輪もまたタイヤの一種です。

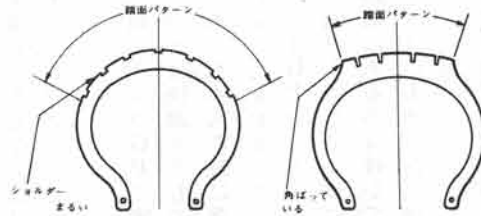
それはともかく、空気入りのタイヤが出来たのはいつ頃のことでしょうか。文献によると、1888年にイギリスのダンロップが初めてゴム製のチューブを用いて、空気入りタイヤを実現したとありますが、このときはタイヤ自体はまだ革製のものであったといえます。その後、摩耗につよいゴムが用いられ、革にかわってゴム引布のタイヤが作られるようになりましたが、これは自転車用で、自動車用としては1896年にアメリカのグッドリッチ社が手がけたのが最初であるといえます。

ところでタイヤの機能は何かといえば、①荷重を支える ②動力を路面に伝える ③安全な走行を保持する ④停止、方向転換を行なわせる——ということにあります。そしてこれらの機能を満足させるために、重要な働きをうけもっているのがタイヤの路面にある模様＝トレッドパターンです。

トレッドパターンの果す役割は、②項、③項、④項においてとくに重要です。

ここに各種あるトレッドパターンと、その効果について述べてみましょう。

なおオートバイはカーブする場合、車を傾斜させなければなりません。このためにタイヤの路面＝トレッドは、四輪車と異なりその断面形状は丸味を帯び、側面にまでトレッドパターンが刻まれています。

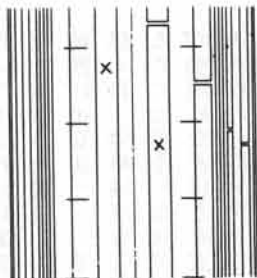


またトレッドパターンの摩耗限度は1.6mmまででそれ以上に摩耗するとトレッドパターンの効果は急速に失われます。すり減ったタイヤが危険なのはこのためで、安全を守るためには、早めにタイヤ交換を行なうことが非常に大切な事柄であるわけです。

■ トレッドパターンの種類と特長

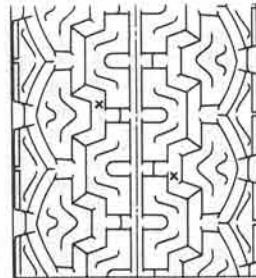
種類	装着	目的	形状	用途
リップパターン	前輪用	操縦及び方向安定のため		一般及びスピードレースなど
ブロックパターン	後輪用 (1部前輪)	高い駆動、制動力を得るため		一般及びスピードレースなど
ブロックスタッドパターン	前後輪とも	悪路での駆動制動力を得、路面を十分把握するため		スクランブルクロスカンントリーなど特殊レース

リップパターン



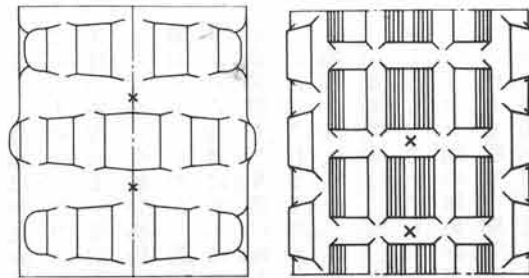
周方向の溝ばかりでなく、断面方向または斜め方向の溝をつけて操縦性および方向安定性に加えて駆動、制動を補うよう考慮されています。

ブロックパターン



乾いた路面上ばかりでなく、濡れた路面でも駆動、制動をよくするために円周方向および断面方向に溝をつけて水はけをよくするよう考慮されています。

ブロックスタッドパターン



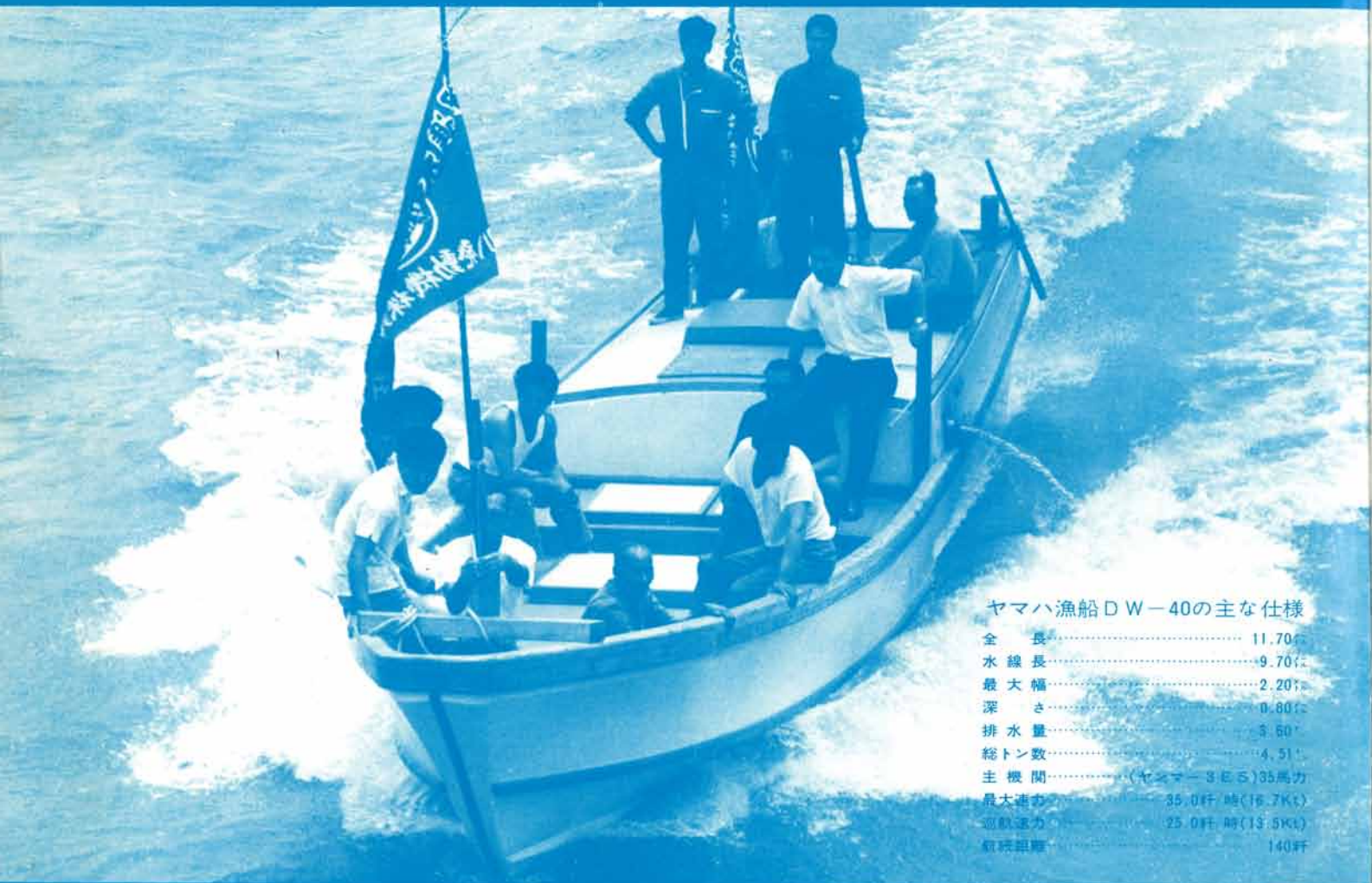
ブロックが大きく粗いものは、不整地の起伏の多い悪路でのグリップがよく、駆動力と排土性の効果が十分に発揮されるようにつくられ、モトクロス競技などに使われます。

ブロックの細かいものは不整地では良好なグリップで前者と同様な性能をもちまた舗装路では高速走行が出来るように操縦性がよく振動が小さくなる設計となっています。

(資料提供・日本ダンロップ)

新発売!

ヤマハ漁船 DW-40



ヤマハ漁船DW-40の主な仕様

全長	11.70m
水線長	9.70m
最大幅	2.20m
深さ	0.80m
排水量	3.60t
総トン数	4.51t
主機関	(ヤマハ3E5)35馬力
最大速力	35.0km/h(18.7kt)
巡航速力	25.0km/h(13.5kt)
航続距離	140km

全国キャラバンで好評博す

漁業用和船の常識を変える「ヤマハ漁船DW-40」が、今月、新発売されました。軽い、強い、さびない強力新船材F.R.P.を使ったヤマハ和船シリーズが、さらに充実したのです。ヤマハ漁船DW-40は、全長11メートル70。最大幅2メートル20におよぶ本格的

なF.R.P.漁船。海苔養殖の母船として、あるいは刺し網、一本釣りにと、その活動範囲は広く、漁業の生産性向上に大きく貢献します。発売にさきだって行なわれた「全国キャラバン」でも、大好評でした。

写真はお客さまを乗せて力強い航行ぶりをみせるDW-40



ヤマハトレール

シリーズ全車が

Gマーク商品

Gマークが象徴する昭和45年度グッドデザイン商品に、ヤマハトレール360RT1、ヤマハトレール90HT1が通産省から選定されました。一昨年の250DT1、昨年の125AT1につづく快挙です。これでヤマハトレールシリーズは全車がグッドデザイン商品です。



ヤマハトレール90HT1



ヤマハトレール360RT1



ヤマハトレール250DT1



ヤマハトレール125AT1

グッドランスポーターションとして、さらにはピーチサイクルとして、新しい需要を呼びおこします。ご商売の繁昌は、高品質・高性能・グッドデザインのヤマハが決め手です。



新発売

ヤマハミニFT50

つづいてもう一つのビッグニュースは、まったく新しいスポーツレジャーバイク「ヤマハミニ」の登場です。タウンライディングはもとより、トレールバギーとして、キャンピン